

【研究発表Ⅲ-⑭ 医療情報・教育・管理】

当院でのグループLINEの活用

旭川赤十字病院 医療技術部 放射線科
○市川 仁 (いちかわひとし)

【目的】

当院では土日・祝日の勤務体制を当直1名、待機2名で運用している。そのうち月4回ほど二次救急が当たるため業務多忙を極めるケースが発生していた。近年技師間でのスマートフォンの普及率が高くなったことをきっかけに放射線科救急呼び出しグループLINEを立ち上げ、第四の技師を確保する試みを始めたのでその実績を報告する。

【方法】

2017年1月から2018年1月までの1年間で救急呼び出しLINEを使用して応援を確保できた件数及び内訳を検証する。

【結果】

1年間でLINEを利用した件数は65件。内訳は業務連絡27件、応援10件、当直・待機の変更希望6件、その他22件であった。

【考察】

応援要請の件数より業務連絡、その他の件数が多かった。業務連絡の内容は多岐に渡り機器の故障などエラーメッセージを画像として載せる事ができるメリットがある。その他ではノロ・骨折・インフルエンザなど休みに関してのお知らせや、災害訓練などにも使用できた。一度に情報を共有できるグループLINEは業務を円滑に進めるアイテムとなっている。